

松浦市長の

スマイルバトン



昭和53年、当時の甲西町役場が新築され、その姿が現れたとき、私は高校生でした。緩やかな曲線美、レンガの茶色と屋根の緑色、L字型のフォルム、そして際立つ4階建て。中に入ると、吹き抜けになった天井。今思うと、東京駅丸の内新駅舎の内部を見上げたときと、同じ感覚であったかもしれません。何もかもが斬新で、一町民としてとても誇らしく思いました。

47年という時の長さを思いますと、甲西町民・そして湖南市民とともに歩んできた庁舎は、まちのシンボルとしてしっかりと使命を果たしてきたと言えます。私自身、思い入れのある庁舎を建て替えることや、その整備位置を議会で表明することについては、相当に強い決意をして臨みました。

行政としましては、これまでから機会を捉え

て市民の皆さまのお声を聴かせていただいているつもりです。さまざまなお声のある中で、決めた以上は、一日も早く、大規模災害に備えた市民の皆さまの安心・安全を守る拠点として、またふと立ち寄り、誰かと語らい、日常の延長線上にある「にぎわい」と「誇り」が息づく空間として整備を進めます。

庁舎は世代を超えて受け継がれる公共の財産です。物価高騰や施工性、財源の課題などをしっかりとらえ、財源計画をお示ししながら、安心していただけるように努めます。

新庁舎が市民の皆さまにとりましても、働く職員にとりましても、湖南市の明るい未来を共有できる場所になるように、大きな一歩を踏み出します！

